

年	出来事, 市場投入製品	製品概要			備考
		最大通紙サイズ (+はノビサイズ)	A4換算コピー速度 または印字速度	価格	
1987	キヤノン：デジタル普通紙カラー複写機「CLC1」発売 富士ゼロックス：普通紙複写機「富士ゼロックス5030」発売 リコー：デスクトップデジタル普通紙複写機「イマジオ320」発売	A3紙 A3紙 A3紙	カラー5/単色10cpm 約30cpm 20cpm	¥3,880千 ¥688千 ¥980千	一般向けとして 世界初のデジタルフルカラー機 。 デジタル画像処理でカラー画質が大きく向上 (400dpi) 前面から用紙補給する業界初のフロントローディングでオフィスでの利便性向上 普及価格で提供し、 オフィス複写機のデジタル化を開く 。OPCドラム感光体、ネガボジ2成分像倍搭載
1988	コニカ：デジタル普通紙カラー複写機「KNC-8010」発売 松下電器産業：デジタル普通紙カラー複写機「FP-C1」発売 、IOI方式採用、ファンクショナルカラー キヤノン：インクジェットA1版複写機「カラーパルジェットコピア PIXEL PRO (CBC-1)」発売 富士ゼロックス：同社初の卓上型レーザープリンタ「富士ゼロックス4105」発売 富士ゼロックス：熱転写方式デジタルフルカラー複写機「富士ゼロックスEC-10」発売 富士ゼロックス：高速普通紙複写機「富士ゼロックス5075/5055」発売	B4紙 A3紙 A1紙 A3紙 A3紙 A3紙	カラー3/単色11cpm カラー5/単色30cpm 0.54cpm* 11ppm カラー8cpm 64/48cpm	¥848千 ¥2,200千 ¥12,000千 ¥448千 ¥2,980千 ¥2,550千/1,850千	感光体上色置ね (IOI) 方式 、ファンクショナルカラーでのオフィスのカラー化を狙う ファンクショナルカラーでのオフィス機。 この時期各社がオフィスのカラー化を模索 (「現バノニック」) インクジェット方式大判カラー複写機 /プリンタ、400dpi/64階調、A1版/6分、A3版/2分20秒、*A4機/1分50秒 富士ゼロックス社初、自社開発の卓上型レーザープリンタ、磁性1成分現像、OPCドラム採用、CUP(Customer Replaceable Unit)ユーザー交換による 同社初のデジタルフルカラー複写機、熱転写方式採用 業界初のCRTディスプレイから操作
1989	リコー：オフィス・カラー複写機「Artage5330」発売 リコー：アナログ高速複写機「FT9100」発売 富士ゼロックス：FAX+複写機のデジタル複合機「Able 3010」発売 キヤノン：デジタルフルカラー複写機「CLC500 PIXEL DIO」発売	A3紙 A3紙 B4紙 A3紙	カラー4/黒24cpm 101cpm 11cpm カラー5/単色10cpm	¥1,380千 ¥7,200千 ¥980千〜 ¥5,500千	アナログ方式で価格を抑え、オフィスをターゲットとし、白黒コピーの生産性を重視 ペルト感光体、フラッシュ露光により101cpm達成 同社もオフィスのデジタル化に注力、低速機から参入 同社デジタルフルカラー機第二弾、画質、イメージクリエイティ性を向上 (400dpi)
1990	Xerox：高速デジタルプリンタ「DocuTech Production Publisher」発売 キヤノン：アナログ高速複写機「NP9800」発売 ミノルタ：デジタルフルカラー複写機「JMOS CF70」発売 コニカ：デジタル普通紙カラー複写機第二弾「KNC-9028」発売 リコー：デジタル普通紙カラー複写機「Artage8000」発売	11x17"紙 A3紙 A3紙 A3紙	135ppm 85cpm カラー7/単色13cpm カラー6.5/単色28cpm	¥4,800千 ¥2,680千 ¥2,250千 ¥3,680千	オンデマンドプリンティング として小〜大企業に活躍 a-Siドラム感光体、85cpm、世界初ファジー制御採用 同社初デジタルフルカラー機、レーザー強度変調による、 網点を用いにくい独自の中間調再現法を採用 (400dpi) IOI方式ファンクショナルカラーの改良、高速化 世界初の 4ドラムタンデム色置ね方式 、 高画質カラー複写の高速化の先駆けとなる
1992	富士ゼロックス：デジタルフルカラー複写機「Acolor635/630」発売 京セラミタ：プリンター「ECOSYS FS-1500/L-1500」発売 キヤノン：デジタルフルカラー機「CLC550」発売 キヤノン：デジタル複写機「GP55」発売 キヤノン：アナログ複写機「NP6030」発売	A3紙 A4紙 A3紙 A3紙 A3紙	カラー6/単色36cpm 10ppm カラー7/単色13cpm 30cpm 30cpm	¥2,280〜2,680千 ¥480千 ¥5,500千 ¥1,180千 ¥770千	キヤノンのCLCと並び、 高画質カラー複写機の代名詞となる 一体カートリッジの1/10、M0.6/A4の経済性 、感光体ほかエンジンを高耐久化、トナー補給のみのエコシスシステム (「現京セラドキュメントソリューションズ」) 高画質化で問題となった偽造に対し、 世界初の偽造防止技術搭載 デジタル化でコンピュータとの連携を可能とし、オフィス業務の改善を狙う、 各社デジタル化、MFP開発が本格化 OPCドラム、エコロジ―設計をしたオフィススタンダード 乾燥現像によるオフセット印刷同等の画質 、800dpi 4-Beamレーザー走査、海外ではカラーODPの開発が本格化(「現Hewlett Packard社」)
1993	Indigo：電子写真方式によるデジタルオフセット「E-Print1000」発売 Xelcon：電子写真によるデジタルカラー印刷機「DCP-1」発売 リコー：タンデム式デジタルフルカラー複写機第二弾「Preter750」発売	A3+紙 320mm幅紙 A3紙	カラー33ppm カラー35/70ppm(両面) カラー15cpm	¥770千 ¥4,800千 ¥5,980千	乾式現像によるデジタルカラー一連紙印刷機 、同時両面印刷を可能とした Artage8000改良、高画質化 (400dpi) カラー機として世界初の自動両面印刷
1994	キヤノン：デジタルフルカラー機「CLC800」発売 コニカ：アナログ高速複写機「U-Bk6192」発売 シャープ：デジタル複写機「AR5040」発売	A3紙 A2紙 A3紙	カラー7cpm 92cpm 40cpm	¥3,980千 ¥5,950千 ¥2,700千	同社最高速 92cpm、A2原稿コピー可能 同社初のデジタル複写機、オフィスへのデジタル複写機が浸透し始める
1995	富士ゼロックス：デジタルフルカラー機「Acolor 935/930」発売 富士ゼロックス：タンデム式デジタルフルカラー複写機「DocuColor4040」発売	A3紙 A3+紙	カラー9cpm カラー40cpm	2,800千 ¥7,000千	デジタルフルカラー機画質向上、淡色再現性改良 (400dpi) 当時 世界最高速フルカラー (40cpm) 達成
1996	Xelcon：デジタルカラー印刷機改良型「DCP/32D、/50D」発売 リコー：省スペース・低価格を実現した「Imagio MF200」を発売	320/500mm幅紙 A3紙	カラー35/70ppm(両面) 20cpm	¥648千	電子写真によるデジタルカラー印刷機改良型、600dpi LED書込み、最大10ドラムOPC 省スペース・低価格によりオフィスのデジタル化、MFPの普及に貢献、同社では デジタル機出荷台数がアナログ機を上回る (400dpi)
1997	Coö：デジタル単色連帳紙印刷機「DemandStream 8000」発売	463mm幅紙**	紙幅により110 or 158ppm		電子写真によるデジタルカラー印刷機改良型、600dpi LED書込み、最大10ドラムOPC 省スペース・低価格によりオフィスのデジタル化、MFPの普及に貢献、同社では デジタル機出荷台数がアナログ機を上回る (400dpi)
1998	キヤノン：フルカラープリンタ「LBP2160」発売 沖データ：タンデム式フルカラープリンタ「MICROLINE 8c」発売 シャープ：タンデム式デジタルフルカラー複写機「AR-C150」発売	A3紙 A4紙 A3+紙	カラー6/単色24ppm カラー8ppm カラー15/単色25cpm	¥648千 ¥1,900千	省スペース・低価格によりオフィスのデジタル化、MFPの普及に貢献、同社では デジタル機出荷台数がアナログ機を上回る (400dpi) 電子写真方式、LED書込みによる単色連帳紙印刷機、**18.25"連続用紙、ターンバー介し重連で両面印刷可能、 「現キヤノンプロダクションプリンティング」 省合トナー採用、各社 ミカルトナーの開発が話題 となる、 オフィス向けフルカラープリンタの開発が加速 (600dpi) A4機では世界初となる タンデム式カラープリンタ、LED書込み搭載 普及機クラス価格帯のオフィス向けデジタルフルカラー機 、高生産性、高画質、ネットワーク対応機能を備える (600dpi)
1999	富士ゼロックス：アナログ高速複写機「Vivace720」発売 キヤノン：タンデム式デジタルフルカラー複写機「CP2120」発売 キヤノン：デジタル複写機「IR5000/6000」発売 リコー：デジタル複写機「Imagio Neo 350」発売	A4紙 A3紙 A4紙 A3紙	72cpm 21cpm 50/60cpm 35cpm	¥3,100千 ¥2,600千 ¥2,080/¥2,380千	100V15A電源で72cpm 達成 磁気ブラシ帯電、クリーナレス等 新技術盛り込む a-Si感光体採用オフィス向け/高速機、ドキュメント集配機能を搭載した新世代ネットワーク複合機 普及層で世界初国際エネルギースタープログラム「 Zero Energy Standby Mode (ZESM) 仕様クリア 」 電子写真によるデジタルカラー印刷機、Heidelberg社と合併でサポート、日本では2003年発売、(2016年に120ppmに高速化: NexPress SX3900)
2001	Eastman Kodak：タンデム式高速デジタルフルカラー印刷機「NexPress2100」発売 リコー：タンデム式中速カラープリンタ「Ipsio color800」発売 キヤノン：デジタル複写機「IR3000」発売	A3紙 A3紙 A3紙	カラー70ppm カラー28/単色38ppm 33cpm	¥588千 ¥880千〜 ¥448千	同社最高速 92cpm、A2原稿コピー可能 同社初のデジタル複写機、オフィスへのデジタル複写機が浸透し始める OPCドラム採用、省スペース、環境配慮技術による一般オフィス向け複合機 各色一体型カートリッジ、4連垂直インライン (タンデム) エンジン
2002	キヤノン：タンデム式中速カラープリンタ「LBP-2810」発売 キヤノン：タンデム式デジタルフルカラー複写機「IR3200」発売 リコー：タンデム式中速カラー複写機「Imagio Neo380」発売	A3紙 A3紙 A3紙	32cpm カラー28/単色38cpm 70ppm	¥1,590千 ¥1,730千	新開発カラーiRコントロール搭載のネットワーク対応 (600x600 dpi) (ネットワーク対応機は¥1,740千) 高画質高速耐久デジタルカラー複写機の小型化、価格格化の先駆けとなる
2003	京セラミタ：高速カラータンデムプリンタ「ECOSYS LS-C5016N」発売 コニカミノルタ：タンデム式高速デジタルフルカラー複写機「8050」発売	A4紙 A3+紙	カラー16/単色16ppm 51cpm	¥278千 ¥3,400千	高画質高速耐久デジタルカラー複写機の小型化、価格格化の先駆けとなる エコシスシリーズ世界最小サイズのA4高速カラータンデムモデル 電子写真の新印刷向け対応が本格化する
2004	富士ゼロックス：DocuColor iGen3 Digital Production Press発売 キヤノン：デジタルフルカラー複写機「Color ImageRUNNER6800」発売	B3+紙 A3紙	100ppm カラー15.5/黒68cp	¥588千 ¥2,555千	2001年Xerox社開発、 感光体上色置ね (Iol) 高速オンデマンドフルカラー印刷機 (600x600 dpi) (「最大364x521mm」) a-Si感光体使用、白黒二値機能を確認し、オフィスのカラーシフトを狙う
2006	コニカミノルタ：タンデム式高速デジタルフルカラー複写機「bizhubPRO C6500」発売 コニカミノルタ：高速モノクロ複写機「bizhubPRO1050e」発売 キヤノン：デジタルフルカラー複写機「ImagePRESS C1」発売	A3紙 A3+紙 A3+紙	カラー65ppm 105ppm カラー14.2/単色60ppm	¥4,000千 ¥6,500千 ¥2,600千	オンデマンドフルカラー印刷機、新開発の重合法トナー、6種類折り中綴じ、100枚のステイブル、80ページの製本フィニッシャー オンデマンドモノクロ印刷機、解像度2400(相当)x600dpi、 新開発の重合法トナーでオフセット印刷並文字品質 1ドラム4色、クリエイティブアーツ向けプリンタとして色ずれ低減グラフィック用高画質を謳う
2007	キヤノン：タンデム式高速デジタルフルカラープリンタ「ImagePRESS C7000VP」発売 富士ゼロックス：高速カラー連帳紙プリンタ「Fuji Xerox 490/980」発売	A3+紙 A3+紙	40ppm 70ppm	¥21,500千	高速高画質によりPOD市場に本格参入、2-beamレーザー(1200x1200 dpi) Xerography方式世界最高速フルカラープリンタ
2008	リコー：タンデム式高速デジタルフルカラープリンタ「Pro C900S」発売 富士ゼロックス：タンデム式高速デジタルフルカラープリンタ(オンデマンド印刷機「700Digital ColorPress」)	A3+紙 A3+紙	90ppm 71ppm	¥15,200千 ¥9,950千	同社としてカラーPOD市場に本格参入、スキャンなしモデルは ¥12,300千 1995年DocuColor4040以来、ライトプロダクション向けカラーシステム
2009	キヤノン：デジタルフルカラー複写機/オフィスネットワーク複合機「ImageRUNNER ADVANCEシリーズ」発売	A3紙	30〜70cpm	¥1,800〜4,950千	IT環境との連携を強化した新世代オフィスネットワーク複合機
2010	富士ゼロックス：タンデム式オンデマンド印刷機「Color 1000 Press」発売 コニカミノルタ：タンデム式オンデマンド印刷機「bizhub pressC8000」発売 キヤノン：デジタルフルカラー複写機/オフィスネットワーク複合機「ImageRUNNER ADVANCE C20000シリーズ」発売	A3+紙 A3+紙 A3紙	100ppm 80ppm 20〜30cpm	¥45,065千* ¥17,200千 ¥1,050〜1,650千	プロダクションプリンティングのハイエンドプロ市場向け、5色エンジックリアトナー可 (*価格は後継機CR1000i) 両面デュアル定着システムにより二次定着での両面同時仕上り 業界最小クラスの設置スペース を実現したほか、スリプからの復帰時間を10秒以下に短縮
2011	コニカミノルタ：モノクロ複写機/オンデマンド印刷機「bizhubPRO1200/1200P」発売	A3+紙	120cpm	¥9,000千	オンデマンドモノクロ印刷機、LED露光 (1200dpi)
2014	キヤノン：タンデム式オンデマンド印刷機「ImagePRESS C800/C700」発売 富士ゼロックス：タンデム式オンデマンド印刷機「Color 1000 Press」発売 コニカミノルタ：タンデム式オンデマンド印刷機「bizhub PRESS C1100」発売	A3+紙 A3+紙 A3+紙	80/70ppm 100ppm 100ppm	¥8,000千/6,500千 ¥45,065千 ¥18,500千	ライトプロダクション市場向け プロダクションプリンタColor 1000 Press後継、 シルバー、ゴールドの特殊色トナー可 用紙対応性向上のため、定着、給紙位置精度を向上
2015	キヤノン：タンデム式オンデマンド印刷機「ImagePRESS C10000VP」発売	A3+紙	100ppm	¥25,000千	同社プロダクションプリンタのハイエンドモデル、SONY共同32beam R-VCSEL(2400x2400dpi) (「最大330.2mmx487.7mm紙に対応」)
2016	Indigo：電子写真方式によるデジタルオフセット「E-Print12000」ドットドรุpaにて発表 富士ゼロックス：「DocuColor iGen5 Digital Production Press」発売	B2+紙 B3+紙	カラー115/単色460ppm** 137ppm	¥98,950千**	オフセット印刷同等の画質 、**単色4600 B2 print/hour、通常YCMKの4色に加えて特別3色、 計7色のトナーが可能 (75x53cm紙) Iol高速オンデマンドフルカラー印刷最上位機、5色目可能 (「364x660mm紙、**プリントサーバー込み」)
2017	東芝デック：デジタル複写機「Loops LP35/LP45/LP50」発売 富士ゼロックス：「Iridesse Production Press」発売	A3+紙 A3+紙	30/45/50cpm 120ppm	¥1,140/1,260/1,550千 ¥55,298千	ロイコ染料で着色し バリエーション共同開発)再利用できる「Loops」 に、 通常白黒印刷機能を搭載した世界で唯一のハイブリッド複合機 1バス6バリエーション 、ホワイト、クリア、メタリックトナー可 (2400x2400dpi)、低温定着の Super EA-Eco-トナー を適用
2018	コニカミノルタ：タンデム式オンデマンド印刷機「AccurioPress C83hc」発売 リコー：タンデム式オンデマンド印刷機「Pro C9210」発売	A3+紙 A3+紙	81ppm 135ppm	¥8,050千 ¥91,200千	多彩度のハイロマトナーが育つワイドな色域 (3600x2400dpi) (「最大330mmx1300mm紙に対応」) 同社プロダクションプリンタのハイエンドモデル、独自開発40cVcSEL (2,400x4,800dpi書込み) (「最大330.2x1260mm紙」)
2019	リコー：デジタルカラー複写機/オフィスネットワーク複合機「IM Cシリーズ」発売 リコー：高速デジタルモノクロ複写機/オンデマンド印刷機「Pro8320S」発売	A3紙 A3+紙	20〜60cpm 136ppm	¥1,070〜2,440千 ¥8,2000千	クラウドサービスを利用し紙とデジタル情報の融合を図る モノクロ高速、高画質、高安定を狙う (2400x4800dpi書込み) (「最大330.2x700mm紙」)
2020	コニカミノルタ：タンデム式オンデマンド印刷機「AccurioPRESS C14000」発売 キヤノン：タンデム式オンデマンド印刷機「ImagePRESS C10010VP」発売	A3+紙 A3+紙	140ppm 100ppm	¥61,599千 ¥25,000千	高速化、画像調整の自動化で、短納期、高生産ワークフロー提案 (3600x2400dpi書込み) パッケージ印刷等用途、用紙対応性を向上 (2400x2400dpi書込み) (「最大330.2mmx1300mm紙に対応」)

太字は本文で説明のある事項、製品

太字は業界に大きな影響を与えた事項